

### 写真文化協会役員が来町

8月10日、(社)日本写真文化協会(東京、大石直臣会長)の歴代役員一行7人が来町し、東川賞受賞作家展を開催中の文化ギャラリーを見学しました。商業写真館を経営している市内の商業写真家団体です。同協会の第55回全国大会の本道開催

(帯広)に合わせて訪れました。一行は、東川賞、写真甲子園の開催地としてばかりでなく、昨年からスタートした「君の椅子」、今年から始まった「人生の記念写真」という町民へのプレゼント事業の話題に興味津々。「写真の原点は家族写真。家族の写真、その人の歴史の記録は、一生の思い出」と話す松岡

市郎町長に「当協会では今、家族写真の普及に力を入れ始めています」と大石会長は意気投合しました。家族写真の普及運動に力を入れるという同協会との間で、町の木工業界が製作する木製の額縁納入、同協会の全国大会開催実現も今後具体的に検討を進めることになりました。



「写真の原点は家族写真」と交流拡大に意気投合した一行

### 情報通信産業界からの町の視察

8月3日、(財)電気通信振興会(東京)の岡井元理事長をはじめとする情報通信事業の国内企業の役員一行が当町の視察に訪れました。

甲子園の出場校作品などを見ながら写真の町事業の取り組み説明を受け、今や国内の大きな事業にまで育ってきた運営規模に驚いた様子。席上、ADSLとISDN回線となっている町内の情報通信環境の改善整備

8月19日、第35回東川町地域親睦球技大会、第15回東川町民水泳大会がそれぞれ、B&G海洋センター体育館・プール、町民運動公園で開催されました。町内各行政区、自治振興会対抗の球技大会は、ソフトボール、ミニバレーボールの2種目。ともに男女混成のチーム編成です。ソフトボール10チーム、ミニバレー6チームに分かれてスポーツに心地よい汗を流しました。

41人が出場しました。小学生の参加は、水泳少年団のメンバーのほかに、今年の夏休みに水泳教室で10日間修了して泳げるようになったちびっ子も。声援にこたえて元気いっぱい力の泳を見せていました。

地域活性化として写真の町活動を積極展開している当町の活動ぶりを知った日本テレネット(株)(東京)の瀧栄治郎社長(が、3社(法人)の役員6人でその実情を視察に来町しました。文化ギャラリーで展示中の今年の東川賞受賞作品展、写真



文化ギャラリーを訪れた一行

「R212」「ジャカスカシャント」「RFT」の4バンド、特別出演としてクラシックギターの大泉結芽さんが出場。旭川、札幌、さらに道南・せたな町から参加のバンドも。曲目は、グループサウンズやベンチャーズの60年代サウンドからJポップス、Jロック、クラシックギターの独奏まで多彩。今や上川中部で唯一のアマチュア野外音楽祭となり、年々出場希望バンドも増えています。

町民水泳大会は、小学校1年生以上一般まで



ソフトボール大会



水泳大会

### 野外ステージ大盛況の羽衣音楽祭

8月19日、キトウシ森林公園の特設野外ステージで第12回羽衣音楽祭が開かれました。約500人が来場し、夏の名残を残す絶好の晴天の中、焼肉やジンギスカンを囲みながら、なつかしのオーケストラサウンドなどを満喫しました。町内の異業種団体の集まり、東川イベントサポートクラブ(守屋勝蔵代表)の主催。今年の参加は過去最高の17バンドになりました。町内から「33農場バンド」



「R212」「ジャカスカシャント」「RFT」の4バンド、特別出演としてクラシックギターの大泉結芽さんが出場。旭川、札幌、さらに道南・せたな町から参加のバンドも。曲目は、グループサウンズやベンチャーズの60年代サウンドからJポップス、Jロック、クラシックギターの独奏まで多彩。今や上川中部で唯一のアマチュア野外音楽祭となり、年々出場希望バンドも増えています。

### 「らぎらぎ・わくわく塾」でカヌー初体験

なぜかな? 何でもやってみよう! といういろいろなことにチャレンジする「らぎらぎ・わくわく塾」の今年第1回講座が8月9日、B&G海洋センターで開催されました。この日挑戦した課題は、カヌー乗り体験。参加した小学生14人とお父さん、お母さん7人は、いずれも初挑戦でした。ふれあいサポートクラブの会員の中から講師を迎え、強化プラスチック製の練習用カヌー



カヌーこぎもうまくなりました

ーを使ってカヌーの持ち方、パドルの振り方から基本特訓です。最初はぎこちなく沈没していた子供たちですが、最後には器用にプール内をこぎ回りました。ライフジャケットの付け方など安全対策もしっかり覚え、これぞ本格的なカヌー遊びも大丈夫! 塾は今後、5回程度の開催予定です。昨年は忠別川の水生生物観察、木炭電池づくりと実験、雪の結晶観察などをしました。

### 写真家、蛭川実花さんが町民写真展を開催

8月6日から9日まで、東京在住の写真家、蛭川実花さん(35)が女性ファッション雑誌、月刊誌「流行通信」(INFASパブリケーションズ刊)の増刊号(10月5日発行予定)に掲載する写真撮影のため来町しました。蛭川さん自身が編集長となる

取り下ろし写真特集号として発行する予定です。特徴である色鮮やかな色彩の作品を撮りたいというのが狙い。ロケ班を組み、東川小学校を中心に市街地周辺で撮影しました。ほかに美瑛町内、ノーザンホースパーク(千歳市)でも撮影口

INFASパブリケーションズ(東京、篠崎雅弘社長)は、昨年国内10人の若手女性写真家による競作写真集「シャッター&ラブ」(B5変形版、229ページ)を発行。その撮影地となつたのが当町内です。今回はその続編。雑誌のリニューアル1周年企画として、再び町内での撮影が実現しました。



夏休み中の東川小校舎でモデル撮影